

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

「トビタテ！留学 JAPAN」派遣学生 (2018 年度)

カナダ・トロント大学 研究留学

「トビタテ！留学 JAPAN」とは：

文部科学省が、グローバル人材育成施策の一環として行う留学促進制度で

審査に合格すると留学のための奨学金（返済不要）が支給されます。

（奨学金額は数十万円～数百万円）



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 青木 絢子

所属 (School) 理学系研究科生物科学専攻

学年 (Grade) 修士 1 年

留学先 (Name of overseas institution)

カナダ(トロント大学)

Sunnybrook Research Centre

留学期間 (study abroad period)

2018/10/2~2018/12/26

記入日 (Date) 2019/1/8

(※左の写真はラボの皆でクリスマスマーケットに行った時の写真です。写真右から二人目が私です。)

留学レポート Study Abroad Report

私は 2018 年 10 月 2 日～2018 年 12 月 26 日までの約 3 か月間、カナダ、トロントにある Sunnybrook Research Centre へ短期研究留学を行いました。この場をお借りしてその留学体験をご報告します。

【留学の動機】

私が留学を最初に現実的に意識したのは、学部 2 年生の時に参加したマレーシア工科大学への短期留学です。当時はなんとなく海外留学に対する憧れからプログラムに参加しました。2 週間という短い期間でしたがプログラム修了時に今回の研究留学を志望するには十分すぎる刺激でした。大学院に進学し、自身の研究を進めていく中で常に世界と繋がっている研究を日本国内だけの経験にするのはもったいない！研究留学は博士課程の学生が行くイメージだけど今行ったらってええやん！と思うようになりました。同じ研究室に所属する先輩方も短期研究留学を行うことになっていたため、それなら私も、と留学を決意しました。

【留学までの経緯】

私は「つばさ基金海外留学支援事業」の支援と「トビタテ！留学 JAPAN」という奨学金制度を併用し本留学を行いました。「トビタテ！留学 JAPAN」とは文部科学省が主催する官民協働海外留学制度で、私は 9 期生に選ばれることができました。この留学奨学金制度は選考が厳しく、応募の段階で様々な書類を準備しなければなりません。しかし、留学計画を何度も練り直す中で自分を見つめ直すとてもいい機会となり、ブラッシュアップしていくことで自分の中でこの留学目的が明確になりました。文部科学省での面接を経て約 1 か月後に採用の連絡をいただき、同時に併願可能なつばさ基金海外留学支援事業の申請を行いました。留学までの準備としては父がヨーロッパへの単身赴任を経験していたため何から始めたらいいかということにはなりません。そして大抵のものは現地で調達できます！私は念のためと持って行ったものが多く運ぶのに苦労しました…。カナダの場合だと味噌や醤油、お米はスーパーで普通に売っていました。また、海外保険には歯の治療がカバーされていないものが多く、海外で治療するとものすごい金額が請求されるので必ず 1 か月前までには歯の検診に行きましょう。私は 1 か月前に検診に行き、渡航直前まで治療に費やすことになりました。意外と盲点なのが予防接種です。もし留学までの期間に余裕があれば渡航先で推奨されている予防接種を調べて受けておくことをお勧めします。

【留学先での研究】

私は日本の所属研究室で我々の細胞から分泌される「エクソソーム」と呼ばれるカプセルを用いた DDS(Drug Delivery System)と呼ばれる狙った細胞(例えばがん細胞など)に薬剤を届ける研究を行っています。留学計画ではこの研究をより発展させるため、新しい技術を学ぶために指導教員の先生の古い知り合いである先生がいらっしゃるカナダの Sunnybrook Research Institute へ留学しました。留学先の研究室はドクター 2 名、ポスドク 2 名、ラボマネージャー、教授というコンパクトなラボでした。私はそれまで細胞実験を主に行っていたため、実験で使うタンパク質を取るための大腸菌培養という基礎の部分から学ばなければなりません。しかし、一番年下ということもあり、普段の実験では常に研究室のメンバーにサポートしていただき目的のデータを得ることができました。帰国後はほかの研究テーマと並行して研究を続けて卒業までに形にできればと考えています。

また、お世話になった研究室は Sunnybrook Hospital というトロント最大の病院の中にあつたため毎日患者さんや入院している方、医者看護師その他病院スタッフの方と顔を合わせるため、自分の研究がいつか役に立つ日が来るかもしれない、と頑張るモチベーションになりました。

【留学先での生活】

今回の留学に関して、私は何より「人の優しさ」について感謝を述べたいと思います。私は留学中エアビーアンドビーという民泊に滞在していましたが、それまで実家暮らしだったため 3 か月間一人暮らしをすることに尋常でない不安を抱えていました。また、カナダへの入国の際に student visa を持たない留学だったため別室行きになり乗り継ぎ便に間に合わない→結果預け入れ手荷物が手元に届かず 3 日間口ストバゲージを起こしてしまいました。ですがラボマネージャーの方やそのご友人、家の大家さんが必要なものを買いに行ったり着替えを貸してくれたりと手厚くケアしてくださり、無事荷物も手元に戻り、留学生活をスタートさせることができました。他にもカナダの郵便がストライキを起こした際も日本からの荷物受け取りを現地の知り合いの方が全て手伝ってくださったりと 3 か月間様々な人に助けられて大変ありがたい経験をさせていただきました。なぜこうも親切なのかと一度聞いたところ、困ったときはお互い様で、誰かが親切にする→親切にしてもらった人がまた別の人に親切にするという輪になっているという答えが返ってきてとても感動したことが印象に残っています。カナダは移民の国でもあり、海外に一人で渡航する不安は万国共通でそれに対してどれだけ現地の人がケアしてあげられるかという考え方に日本でもよく言われる「おもてなし」の心を見ることができました。

話しは変わって実際の生活に関してですが、カナダは物価が高く、チップ制度もあるため外食は基本的に高いのでほぼ自炊をしていました。また、2 回ほど教授のご自宅でのホームパーティーに誘っていただきました。そのうち一回はポットラックという所謂持ち寄りパーティーで、皆さん手作りの自慢の料理を持ち寄っていました。私はおにぎりを持って行きました。笑 トロントという東部最大の都市のため週末はダウントウンのどこかしらでイベントを行っているなど活気のある街でした。観光地も多く、治安もとても良いため私は平日は研究室&時々夜はラボのメンバーとご飯に行き、休日は現地のトピタテ生、ラボの友人と様々なところに行きました。最も印象に残っているのはラボマネージャーさんがモントリオールに帰省する際に他の友人と一緒に私も連れて行っていただいたことです。(車で 6 時間ほどの距離)モントリオールは公用語がフランス語なので、同じカナダでも異国にいるようでした。

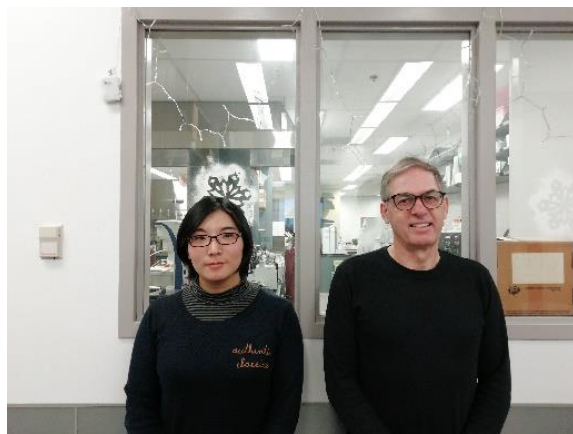
【留学を考えている皆さんへ】

留学を経験された方の多くが「留学」に挑戦する障壁について述べられています。私も周囲の理解があり恵まれていたことを踏まえたとしても住み慣れた日本を飛び出し異国で暮らすということのハードルは決して低くはありませんでした。費用捻出、家族、年齢、語学、学業、就職活動など、上げればきりがありません。とはいえ留学に興味はあるけど…と思っているのならどの段階で挑戦するにしても乗り越えなければいけない壁はあります。私はそこで諦めるのではなく是非トライしてほしいと思います。私の場合費用は奨学金制度を活用、必要単位は授業を前倒しで受けられるようお願いをし、就職活動が始まる 3 月までに帰国できる日程を組みました。案外やろうと思えば何とかなるものなんだなと思いました。外から日本をしてみる機会はないと思いますし、自分を見つめ直すいいきっかけにもなると思います。月並みな感想かもしれませんが、自分の世界が広がります。皆、留学に行こう！とは全く思いませんが少しでも興味があればぜひ、世界にも目を向けてみてください。

最後になりますが、このような貴重な体験が出来たのは、大阪府立大学の国際交流課の皆さま、研究室の皆さんをはじめとして多くの方のご協力、ご支援の他にありません。この場をお借りして感謝申し上げます。



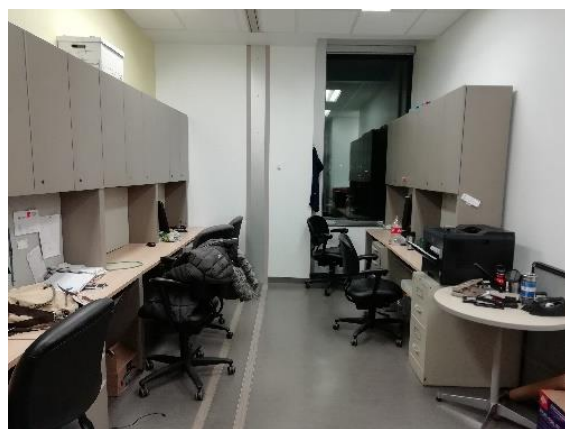
お世話になった研究所



教授とクリスマス前の記念写真(謎の距離感)



ナイアガラの滝にて。アメリカまで友人を迎えに行くのに一悶着。



学生居室



トロント市庁舎前のクリスマスイベント



モントリオールのノートルダム大聖堂